

区 会長	[開会] 本審議会は、2026 年 1 月より開始し、半年間検討を行った。区民・関係団体に意見をいただいたり、小委員会で専門的な議論をいただいたり、多様な意見を最大限反映すべく、答申案を作成した。第 3 回にて素案を、第 4 回にて修正案を議論するなど、丁寧に検討を重ね、改善をしてきた。その結果、無事に基本構想の答申をまとめられた。本日の第 5 回審議会では、答申を行う。 その後、全委員よりこれまでの審議会の活動を振り返ったコメント、特に今後に向けたご提案を頂戴したく、その際は忌憚ないご意見をいただきたい。
区長	基本構想審議会第 5 回の出席に感謝する。会長を中心に、5 回にわたり、皆様それぞれの立場から専門性を生かし、議論いただいたという過程の報告を受けている。 昨年の夏季休業期間にて、子ども、若者、区民の全 3 回のワークショップを実施してから、1 年が経った。大変短い時間のように感じている。審議会では 1 月よりご議論いただき、限られた時間で発言しきれなかった部分はあるかと存じますが、本日答申をいただくこととなった。いただいた答申をベースに、荒川区基本構想、また荒川区ハード・ソフト両面でのまちづくりを進めたい。
区 会長	それでは次第に移る。以降の会長に委任する。 審議会の進行にあたり、事務局より、審議会の成立をご報告いただきたい。
区	本日の審議会の成立について、報告する。 審議会の成立要件は、荒川区基本構想審議会条例第 6 条第 2 項において、審議会は委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができないと規定されている。 本日は半数以上の委員が出席し、定数要件を満たしているため、本会議が成立していることを報告する。
会長 会長	審議会の成立を確認した。 次第 2「答申」に移る。令和 8 年 1 月 6 日の第 1 回基本構想審議会に始まり、委員の皆様におかれては、全体会・小委員会の各回にて熱心かつ貴重なご意見いただいた。 皆様から、2040 年の荒川区を区民が共につくりあげていくという強い思いをいただき、その結果出来上がった答申は荒川区らしさが十分に反映されたすばらしい内容になったと確信している。細かな表現や文言までこだわり、皆様が真摯にご議論下さった成果と考えており、

区 会長	皆様に厚く御礼申し上げます。 なお、答申案については第４回審議会にて、会長の私に一任いただいた。事務局と調整の上、一部文言の修正を行い、委員の皆様には事前にお送りした。 それでは、答申を行うにあたり、進行を事務局に戻す。 会長より、滝口区長へ答申をいただきたい。 答申に当たって。 荒川区基本構想審議会は、令和８年１月８日に、荒川区長から、「荒川区基本構想の策定について」の諮問を受けた。 区長からの諮問では、平成１９年に策定された現行の基本構想から約２０年が経過し、この間、社会経済情勢や区民の価値観、生活様式が大きく変化したことが指摘された。特に、急速な少子高齢化の進行、地域コミュニティの変容、自然災害の激甚化など、区を取り巻く環境はかつてないスピードで変化し続けており、こうした新たな社会課題に対応し、将来にわたって区民が安心して暮らせる持続可能なまちを実現するため、２０４０年を見据えた新たな基本構想の必要性が示された。 当審議会では、５回に及ぶ全体会に加え、小委員会における集中的な議論を重ねてきた。また、区民アンケート、ワークショップ、オープンハウス型のアンケート等、様々な機会を通じて多くの区民の皆様からの貴重な意見を丁寧に伺い、その声を最大限に尊重し、ここに審議会としての考えをまとめたため、答申する。 本答申では、２０４０年の荒川区の未来創造ビジョンとして、「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」を掲げた。そして、２０４０年の荒川区の未来をつくっていくために、区民・企業・団体・区など、地域に関係するあらゆる主体において大切にしていきたい基本理念を掲げるとともに、４つの基本目標を提示した。 答申で示された内容が区民の皆様の誇りとなり、次世代へと繋がる豊かなまちの実現に寄与することを心から願うとともに、着実に施策に反映され、実行されることを期待する。 結びに、本審議会において、活発な意見、提案を賜った委員の皆様をはじめ、荒川区基本構想の策定に当たって意見をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。 それでは、改めて以降の進行を会長に委任する。 ただいま、無事に区長へ答申を行った。皆様のこれまでの尽力に深く感謝する。
区 会長	

会長	続いて、次第３「基本構想審議会の振り返りについて」に移る。 審議会は本日で最後になるため、当審議会の活動を振り返っての感想等、委員の皆様お一人ずつから意見を賜りたい。多くの感想・意見があるかと思うが、会議の時間の都合上、一人あたり２分程度を目安にご意見いただきたい。
委員	未来創造ビジョンの「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」を前回拝見し、「ひとがいきる」を基盤としつつ、特に「ともにつくる」という部分を強調した議論が盛んであったと記憶している。今後、荒川区民と共に作りあげていただくことを切に願っている。
委員	私自身は住民ではないが、区内の大学の教員としてともにつくる役割を担いたいと考えている。 授業等の都合により、あまり議論に参加できず申し訳なく思っている。私自身も区民として２０年近く荒川区に住んでいたが、荒川区のこのような取組については存じ上げなかった。この度すばらしい基本構想ができたため、多くの区民にご覧いただけるよう、積極的に周知広報をしていただきたい。
委員	全体会・小委員会、いずれも委員の意見を丁寧に拾い上げていただけたと感じており、事務局に感謝を表す。 未来創造ビジョン「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」について、まちづくりを標榜する大きなキーワードとして「シビックプライド」という単語があるが、「ともにいきる」は区民にわかりやすくシビックプライドを表現した言葉として、個人的にも大変気に入っている。 前回の委員会にてご意見申し上げた参考資料の体系図について、大変良くなったと考える。こちらの体系図は基本構想の名刺となるだろう。一枚で基本構想が誰でもわかるような図となっており、与えられた時間に応じて要点を説明できる良い仕上がりとなっている。時間があれば４つの基本目標を紐解く説明ができ、手短かに説明する際には上段から下段に沿って説明できると考える。活字離れが進む中、個別具体の説明は忌避されることが多いが、本体系図を基本構想の名刺代わりとして持ち歩き、皆様普及啓発に努めていただけるとよいだろう。 私自身、まちづくりを中心に荒川区行政に関する助力をしてきたが、新たなスタートとして、今後は本理念に叶う形で引き続きお手伝いしたい。
会長	前回の事務局の話によると、体系図については、さらに今後ブラッシュアップするとのことであったため、期待したい。

委員	大きく2点お伝えしたい。 まず1点目に、小委員会の議論では、政策の縦串の議論よりも、横串の課題に関する議論が多く、印象に残っている。これを機に、横串の課題に対し、どのように持続可能なまちを実現するかは今後問われることになるだろう。引き続き、皆様で協力して良いものをつくりあげていただきたい。 2点目に、このような審議会の議論の進め方そのものを見直す時代になってきていると考える。私自身専門分野を生かせる範囲でいくつかの会に参画しているが、市民や関係者が一堂に会して議論する場は減っており、そのような場を行政批判の場にすべきではないと考える。区だけでなく、地域力・区民力が今後問われることになるだろう。全てを行政任せではなく、地域としてどう取り組むか検討すべきだろう。A Iやデジタルの話もあったが、むしろ情報共有等、計画策定プロセス自体が重要になると考える。本会の結論に留まらず、今後のきっかけになるような位置づけとなることに期待したい。
委員	半年間の議論を経て答申がまとまり、感慨深い。私は生涯教育の専門家と呼ばれているが、研究分野としては政策評価を研究している。その観点では、ここからがスタートで、評価をしつつ進めることが重要だと考える。目標と指標を設定するということが記載されているが、指標の評価は一面に過ぎない。近年話題となっているE B P Mでは、指標だけで判断するのではなく、指標の裏で区の施策がどれだけ貢献したのか、効果があるのかを見る。そのためには事業の実施前にデータを収集したり、検証方法の検討をしたりすることが必要になる。今後はそのような点も留意の上、エビデンスを見つつ、進めていただきたい。
委員	第2小委員会の会長を務めたが、保険や福祉教育に関する議論が多かったこともあり、委員より行政職員や学校教員を大切にしてほしいという意見が多かったことが特に印象に残った。私も、現役保護員をしていた際には、生活保護のケースワーカーや児童相談所の児童福祉や障害福祉に従事しており、残業時間が長く、大変過酷な現場であることを実感した。これは荒川区特有の問題ではなく、全国的な問題である。とりわけ災害を経験した自治体では、住民からも特に職員が疲弊すると必要なサービスが受けられなくなるという意見が多くなっている。 職員負担を軽減し、限られた行政資源を活用するには、行政D Xの推進が不可欠だろう。昨今、業者に全てを委託すると人件費が高く、

委員	財政を圧迫することが明らかになりつつある。答申を具体的な施策に落とし込む上で、職員が内製する力に加え、DXの活用には大学の活用もポイントになるだろう。費用を抑え、冗長性を持ちつつ効果を検証できるということがメリットとして挙げられる。私自身もお役にできる部分があれば、具現化についてご協力させていただけると幸いである。 第1回審議会にて、会長が「明るく前向きに」とおっしゃったことが強く印象に残っている。その発言を受け、各委員がそれぞれの立場から活発に意見され、私自身も多くの学びがあった。 委員の構成について、女性比率が少ないことが残念だと感じている。今後審議会等の組織運営にあたっては、意識いただきたい。 基本構想は9月の議会にて議論された後、パブリック・コメント等を受け、成立となるかと存じる。国で言えば憲法にあたるもので、私自身も大切にしたい。基本構想をご存じない方も多い。私共が毎年実施している区民アンケートにて、基本構想について認知度を調査したところ、87%が知らないと回答した。4月時点の結果であり、変化しているかとは思われるが、ぜひ多くの区民に周知できると良いだろう。パブリック・コメントでは一般に2桁から多ければ3桁程度のご回答をいただけるかと思われるが、ぜひ多くの区民にご意見いただき、みんなの基本構想という意識が醸成されると望ましい。 荒川区には明るく前向きに検討された本基本構想が実現するよう、最後まで注力いただきたい。基礎自治体としての本来の仕事である住民の福祉向上への尽力に期待したい。
委員	「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」はシンプルでありながら、多分野に関わり、多様な意味を持つ言葉だろう。荒川区に住むにあたり、主体性をもってまちをつくるという前向きなビジョンと見受ける。 基本目標に荒川区らしさを表現する「下町」や「人情」という言葉が取り入れられていることを生かし、地域の発展に資する取組の充実に期待する。 私自身は議会においても若者施策や環境施策、観光振興に注力してきた。すべての分野に関する発言はできなかったが、若者施策では、私が提言した、若者の意見を施策に反映し、主体的なまちづくりに関与するという要素を取り入れていただけたことをうれしく思っている。 他分野においても他の委員の意見を、私も概ね前向きに捉えてお

委員	り、自身の考えにも沿ったものとなっている。今後、これらの方向性を区の施策に落とし込み、実現に向けて取り組んでいくことが重要になる。そのためには行政や議会、本日参加している委員、区民、組織が一丸となって推進していく必要がある。専門的な知見を有する皆様にご教授いただきつつ、私共も責任を持って取り組んでまいりたい。 本会では荒川区を代表するトップリーダーが集まり、それぞれの立場より活発に議論し、意見を出し切った。取りまとめも大変であったかと思料するが、今後は「ひとがつくる とともにつくる あらかわ」というビジョンを、新たにできたシティプロモーション課中心に周知広報し、策定に関わったことに誇りを持てるような将来に期待したい。
委員	これまでの細かな議論は貴重な経験となった。特に区民の代表として参加された皆様からは大変貴重な意見を聞くことができた。基本構想は、ハード・ソフト両面から、荒川区を今後どのようなまちにするかを定める区政運営の大方針となる。そのような基本構想を皆様と共につくることができたことは、感慨深い。
委員	これまでは前区長が掲げた幸福実感都市荒川の実現に向け、区民・行政・議員が協力してまちづくりを行ってきた。今後は「ひとがいきる とともにつくる あらかわ」となった際、これからの荒川区がどのような区になっていくのか、区政運営を見守りたい。 私からは成果物について意見を申し上げたい。ビジョンの文言や理念のメッセージ性の強さ、覚えやすさは良いだろう。政策分野も網羅されており、内容も良いものになったと感じている。
委員	一方、これまでの議論にもあった通り、やや具体性に欠ける抽象的な内容になったと感じている。基本構想は総合計画唯一の議決事項になるため、議会の審査が重要になると考えている。半年間の内容を持ち帰り、メンバーと話し合いの上、議会の審査にあたりたい。 区議会で日ごろ業務に当たる中で、区民の困りごとや目の前にある課題に対して議会で活動していたが、審議会では、目の前の課題ももちろんであるが、未来の次世代に何を残せるかについて議論でき、貴重な経験となった。 小委員会では、高齢介護等の分野を中心に意見したが、これからは地域全体で高齢者だけでなく、支える人を支え、誰かの無理に頼らずシステムで支えるということが基本構想の中にも含まれたことは個人的にもうれしく思っている。 今後基本構想を絵に描いた餅として終わらせることなく、各施策で

委員	具体的な形にしていくことが議会に求められる役割だろうと考えており、私自身もしっかり取り組みたい。 私は、障がい者団体の一人として参加し、障がい者が置いて行かれないようにという気持ちを持って会議に参加した。わかりやすく優しい基本構想ができ、喜ばしく思っている。 会長のリードにより、多くのまとめていただいた事務局にも御礼申し上げたい。
委員	ご縁があって参加の機会をいただいたことに感謝したい。 現在同時進行で学校教育ビジョン改訂検討委員会が始まった。区民として住みやすい荒川区はもちろん、今後荒川区に転入される方や、荒川区に働きに来られる方など、多くの関係者に選ばれる区づくりを、基本構想として定義いただけたことは大変良いことと考える。 区民アンケートやワークショップ等で意見聴取されたとのことであったが、他区と比較しても、かなり開かれた策定プロセスを経られており、このことは大きな価値があろう。一方で審議会でもいくつかの課題が浮き彫りとなった。今後の行政運営計画で具体的な計画を策定される中では、さらに荒川区らしさが出る計画となればと考える。
委員	「ひとがいきる」について、喜んで働く、遊ぶということで、健康なまちができることを願っている。 「ともにつくる」という言葉については、作った責任を持つ、そして使う人も責任を持つというまちになると望ましい。
委員	ざっくばらんな意見が出たと感じている。 3, 40年前の荒川区は、いわゆる下町らしさが色濃く残る地域という認識で生活していた。近年は、多くのマンションや戸建てができ、隣近所の人を知らない社会となった。地場産業も非常に多かったため、時間を割いてまちのボランティアや町会にも参加している人が多かったが、昨今は町会に若者が入らず苦勞している。 産業においても、多様な場所から登録があり、区内業者が苦勞している部分がある。
委員	日々が大変早いペースで過ぎる現代、15年後荒川区がどのようなまちになっているかということは一言で言えるところでないが、「ひとがいきる ともにつくる」は今後も続くものであると考える。下町の魅力を思う存分発揮していきたい。基本構想が15年後にも役立つものとなっていると望ましい。 荒川区120の町会の代表として本会に参加した。「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」という基本目標の中の、「つながり - 多様

委員	な人々が主体的に関わる地域コミュニティづくり - 』、および「安全安心で快適に暮らせるまち」という基本目標の中の、防災や交通事故のないまちについて、各町会で取り組んでいる。 今後、基本構想から実施計画に移ることや将来の荒川区の地域コミュニティを考慮すると、現状、人数も規模も世帯数も予算も限定的で、懸念がある。このままの推移では、区が求める「多様な人々が主体的に」ということを実現するのは難しいだろう。各町会には従前の歴史があり、簡単には解体できないが、区の手助けにより、従前の町会コミュニティをさらに大きくして、一定以上の規模、3,000～5,000世帯あるいは5,000～1万人規模となれば、多様な人々や主体的活動ができるようになり、それが区のサポートにもつながろう。 また、荒川区の新庁舎建設の審議会にも関わっている。新庁舎周辺の環境整備が大きく代わり、コミュニティづくりにおいて大きな役割を担うことになるだろうと予想している。 何度が欠席することもあり、十分な発言ができなかったことを申し訳なく感じている。しかしながら、このような会議体に始めて参画し、委員がそれぞれの立場や専門知見から、荒川区の未来を真剣に憂い、多様な視点を融合して現場の声を未来につなぐ熱い思いに触れ、刺激を受けた。この場で得た知見を協会活動にも還元しつつ、現場から基本構想の具現化に貢献してまいりたい。
委員	3点述べたい。 1つ目に、ビジョンは大変良いものになったと考える。「ひとがいきる」には2つの意味があり、活躍の「活きる」と生活としての「生きる」ということで安心と挑戦の両要素が含まれ、とても良いフレーズと感じている。「ともにつくる」という言葉から、一緒につくっていかうというメッセージも区民に伝わると望ましい。 2つ目に、行政運営計画への反映について述べる。まずは資料作成に感謝する。今後は行政運営計画に反映することかかと存じますが、文言だけでなく小委員会における多様なキーワード等を参照し、策定いただきたい。今後は、行政も区民も、実現に努めることが重要になる。ビジョンの浸透に向け、一枚絵をぜひ映像化して、こどもたち・若者から含めいろんな人が動画で楽しめるようなもの、ドキュメンタリー、演劇、寸劇等になると望ましい。「ともにつくる」を早速実現できると良いだろう。 3つ目に、本会の検証・振り返りが重要と考える。第1回審議会に

委員	て、会長より「検証が大事」という話があった通り、会議の運営方法、委員の選出方法などは改めてご検討いただきたい。ワークショップ等を実施したことなど、本会の良かった点も含め、改善が必要な点もこのタイミングで振り返り、検証できると望ましい。 このような会に始めて参加し、大変勉強となった。私自身、一区民として当事者意識が高まっている。１５年間、ともに作る一人として尽力したい。 個人的には答申に、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という言葉が入ったことを大変うれしく思っている。まちの活性化やにぎわい創出に取り組んできた中で、仲間たちとも合言葉のようにその言葉を使っており、その言葉が未来に向けて書かれたことは勇気づけられるものとなる。 半年間、多くの課題について議論し、皆様とつながれたことが光栄であるとともに、2040年というかなり先の未来について、荒川区にも他地域にも乗り越えるべき課題が山積していると改めて知ることとなった。 「ひとがいきる ともに作る あらかわ」はとても美しいことだろう。誰一人排除しない社会で、それをともに作るというところに、魅力を感じている。 正直に申し上げると、「ともに作る」ということの危うさも考えた。みんなの仕事は気づけば誰の仕事でもなくなることがある。一区民としても、一企業運営者としても、団体としても、行政としても、この場にいる全ての人が「ともに作る」に関係してくるだろう。今まで先陣の方々が積み上げ、そして昨日までの我々が行動してきた結果が今の荒川区で、これからの荒川区は、紛れもなく我々がつくる未来になる。コロナ禍の人口減少や高齢化、AI等、さまざまな課題に向け、変化が必要になる。次世代にまちを託すバトンが渡せていない現実に対し、「ともに作る」という言葉をどのようににはめこみ、行政運営計画に落とし込むかは非常に重要なポイントになるだろう。 若年層は、自分たちが関わる意味がわからないということを、実際に声を挙げて発信している。その状況を変えない限り、場に残された人たちだけの声が反映されることになる。未来をつくっていく私たちの立場としては、このような現状を変えていく必要があると痛感した。 会長の「明るく前向きに」という話をいただけたため、自由に発言させていただいた。意見を丁寧に拾い上げていただき、事務局に感謝
委員	

	したい。 個人的には、脱行政依存を掲げていた。本当に行政が助けの必要な人をサポートするためには、自立していく人たちをつくることも必要だろう。その上で「ともにつくる」ということが重要になるだろう。自分の出番があるからともにつくれるし、自分の出番で地域社会に貢献するからこそ幸せを実感できるし、幸せな人が増えるから未来がつくられると考える。すべてが連動している中で、起点となる一丁目一番地として、自分の出番をつくって、ともに支えていくという意識が醸成されると望ましい。 荒川区に住んで２０年近くになるが、ＰＴＡや町会活動等で自分の出番があったから、荒川区に住んで良かったと感じられたし、未来を考えたいと感じられた。そのような人を増やすため、一人ひとりの区民の出番を作れるような施策を展開できると良いだろう。私も当事者意識ができたため、自分自身も行動して、今後とも協力したい。
委員	荒川区のことを真剣に考えている委員の皆様と活動できたことを大変うれしく思う。個人として振り返ると、特にアカデミア分野で活躍している皆様のラディカルな意見が興味深かった。 私自身は、ＰＴＡ会長や青少育成地区委員会、あらかわの心推進委員を務めている。審議会は今回で閉会となるが、策定したビジョンに基づいた行動をこれから体現していき、ビジョンの周知広報を今後の目標として引き続き活動したい。
委員	未来創造ビジョンが２０４０年にどのような形となっているか、楽しみに感じている。荒川区に携わる間、自分たちができることを考えたい。 「１５年後、どのような荒川区が良いか」とこどもたちにも尋ねたところ、「変わらなくていい」という返答を受けた。こどもたちが満足できる状態を維持することは難しい。「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」を具体的な形にしていく中で、達成できると望ましい。
委員	このような会議の参加は初めてであったが、委員の皆様の荒川区愛を感じられ、私自身も防災面だけでなく、荒川区の魅力を深く考える機会となった。 今後は、今回策定したビジョンや基本理念、基本目標等を区民がよく理解し、共感することで、区の魅力向上につながることを期待する。消防においても、災害に強い地域づくりを通じて荒川区の魅力向上に貢献したい。
委員	荒川区に生まれ７０年、多様な役割を担う中で、「忙しい」「大変だ」

委員	ということは言わず、感謝しながら取り組んできた。このような荒川区への愛の精神を、２０４０年にわたってしっかり受け継いでいただき、頑張っていたきたい。 半年間貴重なお時間をいただき、熱心なご議論いただいたことに感謝申し上げます。毎回２時間にわたって議論するということは、数多ある区の機関でも限られている。貴重な経験ができたことに感謝する。 毎回、一定の想定をして参加していたが、いい意味で期待を裏切られ、想定を超える多彩な意見をいただけた。事務局は四苦八苦していたが、いただいた意見は可能な限り形にする姿勢を持ち、答申案にも反映できたかと考える。 策定過程でも、アンケートやワークショップ等、さまざまな形式で区民の意見を聴取した。今後は区政の各分野において、このような意見聴取が新たなスタンダードになろう。先例をつくったという点においても、基本構想の検討には意義があっただろう。 「区民が主役」、「主体は区民」と頼もしいお言葉を繰り返しいただけた。区としては熱量をそのままに、それが実践できる環境づくりに努め、共により良い地域づくりに向けて取組を進めてまいりたい。
会長	今回皆様に作成いただいた基本構想は、今後の荒川区の未来を指し示す大変重要な基礎資料となる。作成する上では、専門知見だけ、あるいは区民・関係団体の意見だけでは足りず、多様な意見や専門性を結集する必要があった。矛盾する意見があったことや、時間が限られていたことから、全ての意見を反映できなかったことは仕方ないところでもあり、残念なことでもあるが、その中でも最大限とりまとめに尽力下さった事務局には御礼を申し上げたい。 ただいま委員の皆様よりいただいた貴重なご意見を、手元で記録し、いずれの意見も至極妥当なものとして受け取りつつ、皆様共通のメッセージとしては、以下の通りと解釈した。 まずは基本構想を区民に広く知らせる必要があるということ、そして「ともにつくる」という理念が大変重要であるということ、最後に抽象的にならざるを得ない基本構想を具体的な施策に落とし込むことが非常に大切であり、ここからがスタートになる、という話に集約できるだろう。これは、委員の総意と考える。 他方で、この作業には少なくない困難性を伴う。そこで、委員の皆様をお願いを申し上げたい。基本構想を実現しようとする際、事務局から皆様に助言を求めることが想定される。お忙しいところ恐縮であるが、その際はぜひ事務局の相談に乗っていただきたい。

会長	そして、事務局に対しては、基本構想の今後の進捗について、ぜひご尽力いただいた委員の皆様へフィードバックいただきたい。 2点のお願いをもって私の挨拶に代えさせていただきたい。 各委員のご発言を踏まえ、審議会全体を振り返り、区長より発言いただきたい。
区長	記録をとりつつ委員の皆様の意見を伺った。大変素晴らしい答申をいただけたと感じている。「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」ということで、まさに「いきる」は活躍であり、生活でもあり、安心と挑戦という意味があるということや、喜んで働いて遊んでいくというたくさんの意味が包含されている言葉と理解している。 今後、A Iも含め、デジタル化が進み、社会が高度化するからこそ、人の力、人の知恵、人の輪の結集が必要と考える。人は人らしく生きる権利と責任があるが、国際情勢を見るとは権利どころか人命が簡単に失われており、人が人らしくいきること重要さを感じている。そのような背景から、「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」という言葉には感銘を受けている。 「ともにつくる」については、皆様よりその重要性についてたくさんの意見をいただいた。区民参画やシビックプライド、自分の出番や居場所をつくるといった意味がこめられているということで、当たり前のような言葉だが、とても良い言葉だと感じている。各区の基本構想のキャッチフレーズお見たが、人情やコミュニティなど、荒川区らしさが感じられるビジョンになったと考える。重ね重ね感謝申し上げたい。 今回策定したのはあくまで基本構想で、ここからがスタートとなる。先日からまちづくりマスタープランの策定が進んでいる。都市計画マスタープランから、まちづくりマスタープランに名称を変え、ともにつくるという意味合いも込め、議論を始めている。その他、今後各個別計画を基本構想のもと策定することになる。 委員からのご意見があった通り、コミュニティの在り方をも今後検討する必要がある。行政運営計画につなげるとともに、各分野で基本構想をもとに計画の策定を進める。 事業は毎年予算の下、執行しており、職員には、事業一つひとつに哲学をもって、考えを持って向き合うよう伝えている。各世代に向けた事業があり、シニア向けの事業を打ち出すと、若者から「年寄りはいらない」という声があがったり、若者向けの事業を打ち出すと、シニアから「我々のことも忘れないでほしい」という声が挙がっ

会長 区	たりということがあるが、すべての事業・政策が必ず全世代につながっていくという、事業一つひとつの意味を説明していくことが重要だと考えている。行政だけでは行き届かない部分もあるため、委員の皆様のお力も借りて事業につなげてまいりたい。 １年間、職員や区民と共に荒川区をつくる中で、行政は縦割りを指摘され続けており、その横串を指す方法について、管理職や特別職と共に意識改革に向けて取り組んでいる。 基本構想の周知広報については、行政でも可能な限り取り組んでいくつもりであるが、行政だけの発信では足りない部分もあるかと考えており、ぜひ皆様にもお力添えいただき、ともにづくり、ともに発信できると望ましい。多様な形で区民に届けられるよう尽力したい。 一般に、キャッチフレーズには魂を入れることが大切だと言われるが、「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」とその下にある３つの基本理念、４つの基本目標には、これまでのご議論の中で魂が込められているだろう。これらの言葉を、区民にさらに具体的に届けられるよう工夫していく。 また、言葉の解釈は多様で良いかと考える。価値観が多様化する中で、それぞれがこの言葉を大事にし、今後の荒川区づくりができると良い。 〔閉会〕 小委員会も含め、これまでの会議への参加と活発な議論に感謝する。すべてのご意見ご要望をエールとして受け止め、引き続き尽力する。 以 上
-----------------	--